

厚生労働大臣 舩添 要一 殿

学校法人 岩手医科
理事長 大 堀

標記について、医療法第12条の3の規定に基づき、平成18年度の業務に関して報告します。

記

- 1 高度の医療の提供の実績 → 別紙参照(様式第10)
- 2 高度の医療技術の開発及び評価の実績 → 別紙参照(様式第11)
- 3 高度の医療に関する研修の実績

研修医の人数	6人
--------	----

(注)前年度の研修医の実数を記入すること。

- 4 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の体系的な管理方法
→ 別紙参照(様式第12)
- 5 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び閲覧の実績
- 6 他の病院又は診療所から紹介された患者に対する医療提供の実績
→ 別紙参照(様式第13)
- 7 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	324人	62人	346.1人	看護業務補助	54人	診療エックス線技師	
歯科医師	125人		125人	理学療法士	6人	臨床検査技師	77人
薬 剤 師	49人		49人	作業療法士	4人	衛生検査技師	1人
保 健 師				視能訓練士	6人	そ の 他	
助 産 師	35人		35人	義肢装具士		あん摩マッサージ指圧師	5人
看 護 師	794人		794人	臨床工学技士	4人	医療社会事業従事者	6人
准看護師	14人		14人	栄 養 士	7人	その他の技術員	12人
歯科衛生士	37人		37人	歯 科 技 工 士	10人	事 務 職 員	105人
管理栄養士	14人		14人	診療放射線技	46人	そ の 他 の 職 員	52人

- (注)1 報告を行う当該年度の10月1日現在の員数を記入すること。
- 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
- 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数記入すること。

8 入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科及び小児歯科の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯 科 等	合 計
1日当たり平均入院患者数	803.3人	28.4人	831.7人
1日当たり平均外来患者数	1,573.9人	400.3人	1,974.2人
1日当たり平均調剤件数	1,507.3剤		

- (注)1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療科を受診した患者数を記入すること。
- 2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
- 3 外来患者数は年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤件数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。

(様式第10)

高度の医療の提供の実績

1 高度先進医療の承認の有無及び取扱い患者数

高度先進医療の種類(医科)	承認	取扱い患者数
・顔面骨、頭蓋骨の観血的移動術(昭和62年3月1日承認)	有・無	1人
・培養細胞による先天性代謝異常診断	有・無	0人
・溶血性貧血症の病因解析ならびに遺伝子解析診断法	有・無	0人
・経皮的埋め込み電極を用いた機能的電気刺激療法	有・無	0人
・人工括約筋を用いた尿失禁の治療	有・無	0人
・人工中耳	有・無	0人
・実物大臓器立体モデルによる手術計画	有・無	0人
・レーザー血管形成術	有・無	0人
・性腺機能不全の早期診断法	有・無	0人
・経皮的レーザー椎間板切除術(内視鏡下を含む)	有・無	0人
・造血器腫瘍細胞における薬剤耐性遺伝子産物P糖蛋白の測定	有・無	0人
・スキンドファイバー法による悪性高熱症診断法	有・無	0人
・血小板膜糖蛋白異常症の病型及び病因診断	有・無	0人
・焦点式高エネルギー超音波療法	有・無	0人
・オープンMRを用いた腰椎椎間板ヘルニアに対するヤグレーザーによる経皮的椎間板減圧術	有・無	0人
・肺腫瘍のCTガイド下気管支鏡検査	有・無	0人
・先天性血液凝固異常症の遺伝子診断	有・無	0人
・筋緊張性ジストロフィー症のDNA診断	有・無	0人
・SDI法による抗癌剤感受性試験	有・無	0人
・内視鏡下頸部良性腫瘍摘出術	有・無	0人
・栄養障害型表皮水疱症のDNA診断	有・無	0人
・家族性アミロイドーシスのDNA診断	有・無	0人
・三次元形状解析による顔面の形態的診断	有・無	0人
・マス・スペクトロメトリーによる家族性アミロイドーシスの診断	有・無	0人
・抗がん剤感受性試験(平成14年5月22日承認)	有・無	1人
・子宮頸部前癌病変のHPV-DNA診断	有・無	0人
・不整脈疾患における遺伝子診断	有・無	0人
・腹腔鏡下肝切除術	有・無	0人
・画像支援ナビゲーション手術	有・無	0人
・悪性腫瘍に対する粒子線治療	有・無	0人
・エキシマレーザーによる治療的角膜切除術	有・無	0人
・成長障害のDNA診断	有・無	0人
・生体部分肺移植術	有・無	0人
・門脈圧亢進症に対する経頸静脈的肝内門脈大循環短絡術	有・無	0人
・乳房温存療法における鏡視下腋窩郭清術	有・無	0人
・悪性黒色腫におけるセンチネルリンパ節の遺伝子診断	有・無	0人
・腫瘍性骨病変及び骨粗鬆症に伴う骨脆弱性病変に対する経皮的骨形成術	有・無	0人
・声帯内自家側頭筋膜移植術	有・無	0人
・骨髄細胞移植による血管新生療法	有・無	0人
・ミトコンドリア病のDNA診断	有・無	0人
・悪性黒色腫、乳癌におけるセンチネルリンパ節の同定と転移の検索	有・無	0人
・鏡視下肩峰下腔除圧術	有・無	0人

高度先進医療の種類(医科)	承認	取扱い患者数
・神経変性疾患のDNA診断	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
・脊髄性筋萎縮症のDNA診断	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
・難治性眼疾患に対する羊膜移植術	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
・固形がんに対する重粒子線治療	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
・脊椎腫瘍に対する腫瘍脊椎骨全摘術	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
・カフェイン併用化学療法	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
・ ³¹ P-磁気共鳴スペクトロスコピーとケミカルシフト画像による糖尿病性足病変の非侵襲診断	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
・特発性男性不妊症・性腺機能不全症の遺伝子診断	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
・胎児尿路-羊水腔シャント術	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
・遺伝性コプロポルフィリン症のDNA診断	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
・固形腫瘍(神経芽腫)のRNA診断	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
・硬膜外腔内視鏡による難治性腰下肢痛の治療	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
・重症BCG副反応症例における遺伝子診断	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
・自家液体室素処理骨による骨軟部腫瘍切除後骨欠損の再建	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
・脾腫瘍に対する腹腔鏡補助下脾切除術(脾体尾部切除または核手術)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
・低悪性度非ホジキンリンパ腫の遺伝子診断	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
・悪性脳腫瘍に対する抗がん剤治療における薬剤耐性遺伝子解析	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
・高発がん性遺伝性皮膚疾患のDNA診断	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
・筋過緊張に対するmuscle afferent block(MAB)治療	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
・Q熱診断における血清抗体価測定および病原体遺伝子診断	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
・エキシマレーザ冠動脈形成術	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
・活性化Tリンパ球移入療法	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
・抗がん剤感受性試験(CD-DST法)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
・脾臓移植手術	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
・胸部悪性腫瘍に対するラジオ波焼灼療法	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
・家族性アルツハイマー病の遺伝子診断	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
・腎悪性腫瘍に対するラジオ波焼灼療法	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
・膀胱尿管逆流症に対する腹腔鏡下逆流防止術	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
・中枢神経白質形成異常症の遺伝子診断	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
・三次元再構築画像による股関節疾患の診断と治療	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
・樹状細胞と腫瘍抗原ペプチドを用いた癌ワクチン療法	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
・内視鏡下甲状腺がん手術	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
・骨腫瘍のCT透視ガイド経皮的ラジオ波焼灼療法	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
・泌尿生殖器腫瘍の後腹膜リンパ節転移に対する腹腔鏡下リンパ節郭清術	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
・HLA抗原不一致血縁ドナーからのCD34陽性造血幹細胞移植	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
・下肢静脈瘤に対する血管内レーザー治療法	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
・頚椎椎間板ヘルニアに対するヤグレーザーによる経皮的椎間板減圧術(CT透視下法)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
・胎児胸腔・羊水腔シャントチューブ留置術	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
・活性化血小板の検出	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
・早期胃がんに対する腹腔鏡下センチネルリンパ節検索	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
・ケラチン病の遺伝子診断	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
・隆起性皮膚繊維肉腫の遺伝子診断	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
・抹消血幹細胞(CD34陽性細胞に限る。)による血管再生治療	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
・抹消血単核球移植による血管再生治療	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人

高度先進医療の種類(医科)	承認	取扱い患者数
・副甲状腺内活性型ビタミンD(アナログ)直接注入療法	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
・グルタミン受容体自己抗体による自己免疫性神経疾患の診断	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
腹腔鏡下広汎子宮全摘出術	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
・一絨毛膜性双胎児妊娠において発症した双胎間輸血症候群に対する内視鏡的胎盤吻合血管レーザー焼灼術	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
*	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
・自己腫瘍(組織)及び樹状細胞を用いた活性化自己リンパ球移入療法	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人

高度先進医療の種類(歯科)	承認	取扱い患者数
・インプラント義歯	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
・顎顔面補綴(平成12年5月1日承認)	<input checked="" type="radio"/> 有・無	1人
・顎関節症の補綴学的治療	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
・歯周組織再生誘導法	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
・接着ブリッジによる欠損補綴並びに動揺歯固定	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
・光学印象採得による陶材歯冠修復法	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
・エックス線透視下非観血的唾石摘出術	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
・レーザー応用によるう蝕除去・スケーリングの無痛療法	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
・顎関節鏡視下レーザー手術併用による円板縫合固定術(平成15年1月22日承認)	<input checked="" type="radio"/> 有・無	2人
・顎関節脱臼内視鏡下手術	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
・耳鼻咽喉領域の機能障害を伴った顎関節症に対する中耳伝音系を指標とした顎位決定法	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人

先進医療の種類	承認	取扱い患者数
高周波切除器を用いた子宮腺筋症核出術	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
自動吻合器を用いた直腸粘膜脱又は内痔核手術(PPH)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
画像支援ナビゲーションによる膝靭帯再建手術	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
凍結保存同種組織を用いた外科治療	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
強度変調放射線治療	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
胎児心超音波検査	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
内視鏡下小切開泌尿器腫瘍手術	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
画像支援ナビゲーションによる内視鏡下鼻内副鼻腔手術	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
インプラント義歯	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
人工中耳	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
歯周組織再生誘導法	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
抗がん剤感受性試験	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
腹腔鏡下肝切除術(H19.4.1.承認)8月31日現在	<input checked="" type="radio"/> 有・無	6人
生体部分肺移植術	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
活性化血小板の検出	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
末梢血幹細胞による血管再生治療	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人

先進医療の種類	承認	取扱い患者数
カラー蛍光観察システム下気管支鏡検査及び光線力学療法	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
先天性銅代謝異常症の遺伝子診断	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
超音波骨折療法	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
眼底三次元画像解析	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
CYP2C19遺伝子多型検査に基づくテーラーメイドのヘリコバクター・ピロリ除菌療法	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
非生体ドナーから採取された同種骨・靭帯組織の凍結保存	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
X線CT診断装置及び手術用顕微鏡を用いた歯根端切除術	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
定量CTを用いた有限要素法による骨強度予測評価	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人

(注) 1「取扱い患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

2高度先進医療で上の表に掲げられていないものを行っている場合は、空欄の部分に記入すること。

3先進医療で上の表に掲げられているものは、今年度の業務に関する報告の対象ではないが来年度以降の参考のため記入すること。

2 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾患名	取扱い患者数	疾患名	取扱い患者数
・ベーチェット病	106人	・モヤモヤ病（ウイルス動脈輪閉塞症）	46人
・多発性硬化症	87人	・ウェゲナー肉芽腫症	10人
・重症筋無力症	112人	・特発性拡張型（うっ血型）心筋症	21人
・全身性エリテマトーデス	289人	・多系統委縮症	20人
・スモン	2人	・表皮水疱症（接合部型及び栄養障害型）	2人
・再生不良性貧血	81人	・膿疱性乾癬	19人
・サルコイドーシス	181人	・広範脊柱管狭窄症	0人
・筋萎縮性側索硬化症	29人	・原発性胆汁性肝硬変	99人
・強皮症、皮膚筋炎及び多発性筋炎	216人	・重症急性膵炎	25人
・特発性血小板減少性紫斑病	102人	・特発性大腿骨頭壊死症	7人
・結節性動脈周囲炎	20人	・混合性結合組織病	64人
・潰瘍性大腸炎	171人	・原発性免疫不全症候群	7人
・大動脈炎症候群	22人	・特発性間質性肺炎	10人
・ピュルガー病	13人	・網膜色素変性症	100人
・天疱瘡	46人	・プリオン病	1人
・脊髄小脳変性症	65人	・原発性肺高血圧症	10人
・クローン病	99人	・神経線維腫症	39人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	7人	・亜急性硬化性全脳炎	1人
・悪性関節リウマチ	10人	・バッド・キアリ（Budd-Chiari）症候群	5人
・パーキンソン病関連疾患	419人	・特発性慢性肺血栓栓症（肺高血圧型）	2人
・アミロイドーシス	20人	・ライソゾーム病（ファブリー[Fabry]病）含む	5人
・後縦靭帯骨化症	118人	・副腎白質ジストロフィー	0人
・ハンチントン病	0人		

(注) 「取扱い患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

3 病院・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	1. 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 ②. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。		
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	1ヶ月に2回		
剖検の状況	剖検症例数	49例	剖検率 12.7%

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
急性肝炎の劇症化予知・早期治療・搬送システムの確立：肝炎劇症化の機序に関する基礎的検討を含めて	鈴木 一幸	内科学Ⅰ	1,300	委 補 岩手県地域医療研究費補助金
地域住民を対象とした循環器疾患のリスク因子の検討	中村 元行	内科学Ⅱ	1,150	委 補 岩手県地域医療研究費補助金
慢性閉塞性肺疾患（COPD）の発症と病態に関わる遺伝子多型の研究	井上 洋西	内科学Ⅲ	1,100	委 補 岩手県地域医療研究費補助金
軽度認知障害（MCI）の疫学とMCIに合併するラダナ梗塞の意義	寺山 靖夫	神経内科学	2,150	委 補 岩手県地域医療研究費補助金
内頸動脈狭窄症の病態解析	小川 彰	脳神経外科学	2,150	委 補 岩手県地域医療研究費補助金
椎間板変性と腰椎固定のための移植骨に対する多血小板血漿の効果	嶋村 正	整形外科	1,150	委 補 岩手県地域医療研究費補助金
赤外線観察カメラシステムを用いたリンパ流の検索とその応用	小林 誠一郎	形成外科学	1,100	委 補 岩手県地域医療研究費補助金
再発卵巣癌に対する有用な化学療法の開発—CPT-11/oralVP-11併用化学療法の有用性に関する検討—	杉山 徹	産婦人科学	1,150	委 補 岩手県地域医療研究費補助金
新生児血液浄化療法の標準化に向けた安全性の検討	千田 勝一	小児科学	1,150	委 補 岩手県地域医療研究費補助金
加齢による聴覚障害と遺伝子多型に関する研究	佐藤 宏昭	耳鼻咽喉科学	1,100	委 補 岩手県地域医療研究費補助金
角膜移植待機患者を減少させるための低侵襲術式の開発	黒坂 大次郎	眼科学	1,100	委 補 岩手県地域医療研究費補助金
微小転移検出法を用いた、進行期悪性黒色腫に対する化学療法効果判定法の研究	赤坂 俊英	皮膚科学	1,100	委 補 岩手県地域医療研究費補助金
岩手県透析患者の循環器疾患発症・死亡の要因に関する大規模コホート研究	藤岡 知昭	泌尿器科学	1,150	委 補 岩手県地域医療研究費補助金
自殺企図者の行動特性と受診経路に関する調査	酒井 明夫	神経精神科学	1,100	委 補 岩手県地域医療研究費補助金
乳房温存療法における放射線照射法の標準化	江原 茂	放射線科学	1,100	委 補 岩手県地域医療研究費補助金
岩手県民の疾病早期診断のための新しい臨床検査の開発	諏訪部 章	臨床検査医学	1,000	委 補 岩手県地域医療研究費補助金
岩手県における低侵襲胸腔鏡下呼吸器外科手術の推進	谷田 達男	呼吸器外科	1,100	委 補 岩手県地域医療研究費補助金
急性白血病の予後因子による層別的治療の試み	石田 陽治	血液内科	1,100	委 補 岩手県地域医療研究費補助金
岩手県の高血圧症患者における耐糖能異常の頻度と高血圧症合併・耐糖能境界型からの糖尿病発症予防の研究	佐藤 謙	糖尿病代謝内科	1,000	委 補 岩手県地域医療研究費補助金
救急領域における様々な病態解析	遠藤 重厚	救急医学	1,100	委 補 岩手県地域医療研究費補助金
混合性結合組織病の病態解明と治療法の確立に関する研究	澤井 高志	病理学Ⅰ	2,000	委 補 厚生労働科学研究費補助金

遠隔診断の技術を用いたがんの病理診断支援のあり方に関する研究	澤井 高志	病理学 I	1,800	補 委 補	厚生労働科学研究費補助金
関節リウマチ・骨粗鬆症の重症化防止治療開発研究	宇月 美和	病理学 I	3,000	委 補	厚生労働科学研究費補助金
B型及びC型肝炎ウイルスの感染者に対する治療の標準化に関する臨床的研究	鈴木 一幸	内科学 I	1,000	委 補	厚生労働科学研究費補助金
高機能保持ヒト肝細胞組込型細胞チップとナノセンサーによる新薬開発における薬物動態・毒性を評価する新規バイオセンサーの開発	鈴木 一幸	内科学 I	500	委 補	厚生労働科学研究費補助金
B型及びC型肝炎の疫学及び検診を含む肝炎対策に関する研究	阿部 弘一	内科学 I	2,000	委 補	厚生労働科学研究費補助金
B型及びC型肝炎ウイルスの新たな感染予防法の確立のための感染病態解明に関する研究	鈴木 一幸	内科学 I	2,000	委 補	厚生労働科学研究費補助金
急性循環器疾患の発症登録による発症病態分析と要因解明および治療効果の評価および活用に関する研究	中村 元行	内科学 II	5,650	委 補	厚生労働科学研究費補助金
脳梗塞急性期から開始する筋萎縮阻止薬療法が慢性期運動機能に与える影響に関する研究	寺山 靖夫	神経内科学	800	委 補	厚生労働科学研究費補助金
急性循環器疾患の発症登録による発症病態分析と要因解明および治療効果の評価および活用に関する研究	寺山 靖夫	神経内科学	1,000	委 補	厚生労働科学研究費補助金
第IV期食道がんに対する標準的治療法の確立に関する研究	池田 健一郎	外科学	600	委 補	厚生労働科学研究費補助金
悪性脳腫瘍の標準的治療法の確立に関する研究	別府 高明	脳神経外科学	1,000	委 補	厚生労働科学研究費補助金
超急性期脳梗塞治療法の確立に関する多施設共同ランダム化比較試験（若手医師・協力者活用に要する研究）	小川 彰	脳神経外科学	13,288	委 補	厚生労働科学研究費補助金
内頸動脈閉塞症にともなう血行力学的脳梗塞の発症予防に関する研究	小川 彰	脳神経外科学	1,800	委 補	厚生労働科学研究費補助金
脳卒中危険因子・発症・要介護・医療費に関する大規模縦断研究	小川 彰	脳神経外科学	10,115	委 補	厚生労働科学研究費補助金
高次脳機能を温存する転移性脳腫瘍の治療法確立に関する研究	小川 彰	脳神経外科学	700	委 補	厚生労働科学研究費補助金
超急性期脳梗塞治療法の確立に関する多施設共同ランダム化比較試験に関する研究	小川 彰	脳神経外科学	13,500	委 補	厚生労働科学研究費補助金
効果的かつ効率的ながん専門医の育成方法に関する研究	杉山 徹	産婦人科学	1,000	委 補	厚生労働科学研究費補助金
進行・再発子宮頸がんに対する標準的治療体系の確立に関する研究	杉山 徹	産婦人科学	1,000	委 補	厚生労働科学研究費補助金
急性高度難聴に関する調査研究	佐藤 宏昭	耳鼻咽喉科学	1,200	委 補	厚生労働科学研究費補助金
WT1癌抗原ペプチドを用いた癌の免疫療法の開発	藤岡 知昭	泌尿器科学	800	委 補	厚生労働科学研究費補助金
透析施設におけるC型肝炎院内感染の状況・予後・予防に関する研究	藤岡 知昭	泌尿器科学	9,200	委 補	厚生労働科学研究費補助金
超急性期脳梗塞治療法の確立に関する多施設共同ランダム化比較試験に関する研究	佐々木 真理	放射線科学	800	委 補	厚生労働科学研究費補助金

輸血用血液製剤中のエンドトキシンに関する研究	遠藤 重厚	救急医学	7,000	補 委	厚生労働科学研究費補助金
EBウイルス感染によるTおよびNK細胞の免疫機能修飾の研究	菅野 祐幸	病理学Ⅰ	1,400	補 委	文部科学省科学研究費補助金
慢性傷害ラット肝における肝幹細胞の出現動態とその分裂寿命延長に関する研究	増田 友之	病理学Ⅱ	500	補 委	文部科学省科学研究費補助金
MGB技術を用いた造血器腫瘍における微小残存病変定量法の開発	阿保 亜紀子	病理学Ⅱ	900	補 委	文部科学省科学研究費補助金
肝星細胞におけるAngⅡ-EGFR-ADAM17シグナル伝達系の解明	及川 浩樹	病理学Ⅱ	2,500	補 委	文部科学省科学研究費補助金
肝性脳症の高次脳機能異常の発症機序に関する包括的解析	加藤 章信	内科学Ⅰ	1,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
過敏性腸症候群の原因としてのCHRM3およびβ3AR遺伝子多型の研究	千葉 俊美	内科学Ⅰ	800	補 委	文部科学省科学研究費補助金
肝性脳症における時計遺伝子の発現動態に関する検討	鈴木 一幸	内科学Ⅰ	1,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
新規心血管疾患発症リスクマーカーの有用性の検証	中村 元行	内科学Ⅱ	800	補 委	文部科学省科学研究費補助金
喘息気道リモデリングに関与する骨髄由来線維芽細胞の解析と介入的機能調節	山内 広平	内科学Ⅲ	1,400	補 委	文部科学省科学研究費補助金
ビーズアレイ法を用いた敗血症における多項目同時サイトカイン・ケモカインの変動解析	小鹿 雅博	外科学	2,500	補 委	文部科学省科学研究費補助金
分子標的治療薬ZD1839を用いた老化誘導療法による食道癌治療戦略の開発	池田 健一郎	外科学	300	補 委	文部科学省科学研究費補助金
臍頭十二指腸切除術後の胃運動の非侵襲的評価ーリアルタイムMRイメージの利用ー	大森 浩明	外科学	1,500	補 委	文部科学省科学研究費補助金
G2M細胞周期制御遺伝子Chk1を標的とした甲状腺未分化癌の治療戦略の開発研究	小笠原 聡	外科学	1,800	補 委	文部科学省科学研究費補助金
エピジェネティックな発現制御を受けている食道癌原因候補遺伝子の解析	岩谷 岳	外科学	2,200	補 委	文部科学省科学研究費補助金
頸部内頸動脈及び頭蓋内脳血管の狭窄性動脈硬化病変進展抑制に関する研究	岩谷 岳	外科学	2,200	補 委	文部科学省科学研究費補助金
頸部内頸動脈及び頭蓋内脳血管の狭窄性動脈硬化病変進展抑制に関する研究	小川 彰	脳神経外科学	12,800	補 委	文部科学省科学研究費補助金
超高磁場MRIを用いた頸部頸動脈壁の性状評価に関する研究	樫村 博史	脳神経外科学	1,700	補 委	文部科学省科学研究費補助金
頸動脈内膜剥離術後過灌流の発生メカニズムと神経組織に与える影響の解明	小笠原 邦昭	脳神経外科学	1,600	補 委	文部科学省科学研究費補助金
CPR画像による言語野同定法新規開発	西本 英明	脳神経外科学	1,060	補 委	文部科学省科学研究費補助金
脳神経外科医による臨床データマイニングのための手書き入力インターフェイスの開発	藤原 俊朗	脳神経外科学	2,400	補 委	文部科学省科学研究費補助金
髄膜腫におけるゲノム異常と放射線感受性の関連についての研究	荒井 啓史	脳神経外科学	600	補 委	文部科学省科学研究費補助金

NADH蛍光観測システムによる心筋エネルギー代謝の評価：臨床用プロトタイプの開発	福廣 吉晃	外科学Ⅲ	500	補 委	文部科学省科学研究費補助金
脊髄圧迫病変の超高磁場MR画像と神経学的所見の対比追跡	嶋村 正	整形外科学	800	補 委	文部科学省科学研究費補助金
膝・脛輔再建後の機能予後向上への試み	西田 淳	整形外科学	900	補 委	文部科学省科学研究費補助金
唇顎口蓋裂患者の精神状態の分析と満足度に対する研究	那須 和佳子	形成外科学	1,400	補 委	文部科学省科学研究費補助金
骨トランスポート法による頭蓋骨欠損再建に関する実験的研究	本多 孝之	形成外科学	1,400	補 委	文部科学省科学研究費補助金
心磁図を用いた胎児の自律神経活動の評価	福島 明宗	産婦人科学	1,500	補 委	文部科学省科学研究費補助金
マウス新生児におけるDNAメチル化からみた成人病胎児期発症説の解明	室月 淳	産婦人科学	2,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
各種人工肺サーファクタントの表面活性・生理活性と成分・超微構造との比較研究	佐々木 美香	小児科学	500	補 委	文部科学省科学研究費補助金
合成ペプチドを用いた合成サーファクタントの開発：生理活性の評価	千田 勝一	小児科学	1,900	補 委	文部科学省科学研究費補助金
造影剤を使用しない新しいMRI撮像法による複雑心奇形の低侵襲的診断	小山 耕太郎	小児科学	900	補 委	文部科学省科学研究費補助金
調節機能を回復させる眼内レンズの開発	黒坂 大次郎	眼科学	1,400	補 委	文部科学省科学研究費補助金
視神経障害後の全視野刺激網膜電図および多局所網膜電図の変化	町田 繁樹	眼科学	1,100	補 委	文部科学省科学研究費補助金
肝細胞増殖因子の網膜色素上皮に対する保護効果	田中 三知子	眼科学	2,900	補 委	文部科学省科学研究費補助金
角膜上皮構造におけるカルシウム動態を介した細胞内情報伝達	木村 桂	眼科学	1,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
Heat shock proteinを用いた視細胞変性に対する治療法の開発	向井田 泰子	眼科学	3,400	補 委	文部科学省科学研究費補助金
未脱水新鮮皮膚標本の電子顕微鏡観察	森 志朋	皮膚科学	2,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
皮膚悪性腫瘍に対するイシクイモッドの抗腫瘍機序の解明	前田 文彦	皮膚科学	700	補 委	文部科学省科学研究費補助金
T細胞アポトーシス回避による免疫賦活と癌特異抗原認識による新たな腎癌治療の構築	工藤 大輔	泌尿器科学	1,300	補 委	文部科学省科学研究費補助金
膀胱癌に対するMVA-Cの術前感受性予測システムの開発および臨床応用に関する研究	藤岡 知昭	泌尿器科学	1,900	補 委	文部科学省科学研究費補助金
ビタミンD-ビタミンD受容体の発現・活性制御による新たな腎癌治療の基礎的研究	小原 航	泌尿器科学	1,300	補 委	文部科学省科学研究費補助金
マイクロアレイ解析による腎癌予後遺伝子抽出及び関連蛋白解析による新治療戦略の構築	杉村 淳	泌尿器科学	700	補 委	文部科学省科学研究費補助金
海外在留邦人精神科救急事例の受療経路と転帰に関する広域実態調査	鈴木 満	神経精神科学	5,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金

超高磁場MRIによるメニエール病の画像診断	中里 龍彦	放射線科学	500	補 委	文部科学省科学研究費補助金
骨腫瘍診断に影響する因子の評価と骨腫瘍画像診断のための教育システムの開発	江原 茂	放射線科学	500	補 委	文部科学省科学研究費補助金
MRI神経メラニン画像を用いたドパミン、ノルアドレナリン神経核の機能形態解析	佐々木 真理	放射線科学	900	補 委	文部科学省科学研究費補助金
MRIとCTによるAdamkiewicz動脈の診断法の開発	吉岡 邦浩	放射線科学	700	補 委	文部科学省科学研究費補助金
心磁計による薬物誘発QT延長と関連する遺伝子一塩基多型の解析法の開発	中居 賢司	臨床検査医学	2,100	補 委	文部科学省科学研究費補助金
敗血症における免疫制御性メディエーターの解明	佐藤 信博	救急医学	1,800	補 委	文部科学省科学研究費補助金
脳血管痙攣における血管平滑筋細胞の転写機構、及び転写調節による治療効果の解析	吉田 研二	高度救命救急センター	3,000	補 委	文部科学省科学研究費補助金
糖質溶液による口腔洗浄が経鼻管挿入患者の口臭に及ぼす影響	岸 光男	予防歯科学	900	補 委	文部科学省科学研究費補助金
口腔状態に基づく脳血管障害評価スケールの開発	稲葉 大輔	予防歯科学	800	補 委	文部科学省科学研究費補助金
新しい再石灰化促進機能素材「リン酸化オリゴ糖カルシウム」の歯科臨床応用	稲葉 大輔	予防歯科学	2,600	補 委	文部科学省科学研究費補助金
妊産婦とその出生児間でのう蝕病原性菌の母子伝播に関する研究	浅川 麻美	小児歯科学	500	補 委	文部科学省科学研究費補助金
放射線治療効果とFDG集積に関連するGluT-1およびHIF-1発現について	高橋 徳明	歯科放射線学	1,100	補 委	文部科学省科学研究費補助金
口腔癌のPETにおけるF-18 Cholineの核医学的評価	小豆島 正典	歯科放射線学	1,900	補 委	文部科学省科学研究費補助金
リドファインの2相性変化における細胞内カルシウムイオン動態の検討	佐藤 健一	歯科麻酔学	500	補 委	文部科学省科学研究費補助金
心電図RR間隔変動の解析における歯科治療時の自律神経活動の研究	菊池 和子	歯科麻酔学	300	補 委	文部科学省科学研究費補助金
メタボリックシンドローム及び動脈硬化症における炎症性サイトカイン遺伝子の役割の解析	佐藤 譲	糖尿病代謝内科学	千円 1,000	補 委	岩手県保険医療研究費補助金
糖尿病予防のための戦略研究課題3：J-D01T3	佐藤 譲	糖尿病代謝内科学	3,000	補 委	国際協力医学研究振興財団
心臓・血管減身クリニックによる一般住民を対象とした循環器疾患コホート研究	中村 元行	内科学II	2,000	補 委	公益信託日本動脈硬化予防研究基金
超急性期脳梗塞治療法の確立に関する多施設共同ランダム化比較試験	小川 彰	脳神経外科学	13,600	補 委	厚生労働科学研究費補助金 (循環器疾患等生活習慣病 対策総合研究事業)
超急性期脳梗塞治療法の確立に関する多施設共同ランダム化比較試験 (若手医師・協力者活用に要する研究)	小川 彰	脳神経外科学	13,288	補 委	厚生労働科学研究費補助金 (臨床研究基盤整備推進研究事業 (若手医師・協力者活用に要する研究))
内頸動脈閉鎖症にともなう血行力学的脳梗塞の発症予防に関する研究	小川 彰	脳神経外科学	1,800	補 委	厚生労働科学研究費補助金 (循環器疾患等生活習慣病対策 総合研究事業)
高次脳機能を温存する転移性脳腫瘍の治療法確立に関する研究	小川 彰	脳神経外科学	700	補 委	厚生労働科学研究費補助金 (がん臨床研究事業)

悪性脳腫瘍の標準的治療法の確立に関する研究	別府 高明	脳神経外科学	1,000	補 委 厚生労働科学研究費補助金 (がん臨床研究事業)
急性期脳梗塞におけるCT, MRI検査の標準化に関する研究	小川 彰	脳神経外科学	1,500	補 委 循環器病研究委託費
脳梗塞に対する予防的外科治療の効果の科学的評価と治療リスク軽減に関する研究	小川 彰	脳神経外科学	1,000	補 委 美原賞 (公益信託美原脳血管障害 研究振興基金)
腱・腱鞘再建後の機能予防向上への試み	西田 敦	整形外科学	900	補 委 文部省科学研究費補助金
脳室周囲白質軟化症の急性期脳MRIと学童期予後との比較	赤坂 真奈美	小児科学	500	補 委 平成18年度森永奉仕会研究奨励金
「ラゲチンの安全性向上のための品質確保の方策に関する研究」(主任、竹中浩治) 班員	千田 勝一	小児科学	50	補 委 平成18年度厚生労働省医薬品・ 医療機器等レギュラトリー・サイエンス 総合研究事業
新生児血液浄化療法の標準化に向けた安全性の検討	千田 勝一	小児科学	1,150	補 委 平成17年度岩手県地域医療 研究事業
急性感音難聴の病態に関する研究	佐藤 宏昭	耳鼻咽喉科学	1,750	補 委 岩手県保険医療研究費補助金
急性高度難聴に関する調査研究	佐藤 宏昭	耳鼻咽喉科学	1,100	補 委 厚生労働科学研究補助金 (難治性疾患克服研究事業)
がん心療ガイドラインの適用と評価に関する研究	藤岡 知昭	泌尿器科学	1,500	補 委 厚生労働科学研究費補助金
自殺対策のための戦略研究「複合的自殺対策プログラムの自殺企図予防効果に関する地域介入研究」	酒井 明夫	精神科学	10,750	補 委 厚生労働省科学研究費補助金 (こころの健康科学研究事業)
自殺対策のための戦略研究「自殺企図の再発防止に対する複合的ケース・マネジメントの効果：多施設共同による無作為化比較研究」	酒井 明夫	精神科学	8,600	補 委 厚生労働省科学研究費補助金 (こころの健康科学研究事業)
高齢者の心の健康と自殺予防に関する広域にわたる包括的事業	酒井 明夫	精神科学	2,000	補 委 (財)岩手県長寿社会振興財団 (高齢者保健福祉基金助成金)
自死遺族への支援体制の構築を目的とした心理学的剖検に関する調査・研究及びかかりつけ医等医療関係者研修会開催事業	酒井 明夫	精神科学	6,590	補 委 岩手県
急性脳梗塞におけるCT, MRI検査の標準化に関する研究	佐々木 真理	放射線科学	23,900	補 委 厚生労働省循環器病研究委託費 17公-3(佐々木班)
超急性脳梗塞治療法の確立に関する多施設共同ランダム化比較試験	佐々木 真理	放射線科学	800	補 委 厚生労働科学研究費補助金 (小川班)
正常圧水頭症と関連疾患の病因・病態と治療に関する研究H16-心筋04	佐々木 真理	放射線科学	700	補 委 厚生労働科学研究費補助金 H17-難治17(湯浅班)
脳梗塞におけるMRI検査の標準化に関する研究	佐々木 真理	放射線科学	1,000	補 委 日本磁気共鳴医学会標準化 プロジェクト補助金(佐々木班)
脳ドックにおけるMRIの標準化に関する研究	佐々木 真理	放射線科学	200	補 委 日本放射線科専門医会・医会 マーケティンググループ補助金(佐々木班)
放射線感受性マイグロブセルによる薬剤標的療法	原田 聡	放射線科学	3,000	補 委 東京大学学術開放センター
内シャント狭窄治療を目的としたナノセラミックス複合化ステントグラフトの開発	古籔 勉 (田中良一分担)	放射線科学	27,000	補 委 厚生労働省 健康局 生活習慣病対策室
局所療法適応外の肝細胞がんに対する経動脈的治療法標準化の研究	曾根 美雪	放射線科学	1,000	補 委 厚生労働省がん研究助成金 (荒井班)

「高分解能心電解析装置の開発」	中居 賢司	臨床検査医学	5,848	補 夢県土いわて戦略的研究推進事業 委 (岩手県)
混合性結合組織病の病態解明と治療法の確立に関する研究	澤井 高志	病理学 I	2,000	補 厚生労働省難治性疾患克服 委 研究事業 (三森班)
遠隔診断の技術を用いたがんの病理診断支援のあり方に関する研究	澤井 高志	病理学 I	1,800	補 厚生労働省がん臨床研究事業 委 (松野班)
関節リウマチ・骨粗鬆症の重症化防止治療開発研究	宇月 美和	病理学 I	3,000	補 厚生労働省免疫アレルギー疾患 委 予防・治療研究事業 (越智班)
・ヒト血管炎におけるEBウイルスの関与・膠原病に合併する肺高血圧症 (PH) における肺血管内皮細胞傷害に 県内診療所等の医療スタッフへの専門医療支援	澤井 高志	病理学 I	1,750	補 先端医療研究センター
薬剤や環境因子によるDNA損傷と細胞動態との関係の解明	澤井 高志	病理学 I	1,100	補 岩手県地域医療研究費助成 委
薬剤や環境因子によるDNA損傷と細胞動態との関係の解明	黒瀬 顕	病理学 I	1,710	補 私学振興事業団学術研究高度化 委 推進経費 (共同研究経費)
尋常性乾癬における表皮増殖因子の発現及びサイトカインとの共同作用の検討	吉田 亜希 (第一病理大学院生)	病理学 I	125	補 私学振興事業団大学院整備 委 重点化経費-研究科特別経費
医療用テラヘルツ光診断システムの開発 (テラヘルツ光波の病理組織解析への応用)	澤井 高志	病理学 I	3,500	補 文部科学省科学技術試験研究費 委
肝不全患者の分子標的治療法の開発研究	増田 友之	病理学 II	9,587	補 日本私立学校振興共済事業団 委
バーチャルスライドを用いた遠隔病理診断	中村 眞一	臨床病理学	1,100	補 岩手県地域医療研究費補助金 委
Crypt FISH 二原管分離材料を用いたFISH法による染色体異常の解析	上杉 憲幸	臨床病理学	1,000	補 文部省科学研究費補助金 委
顎関節症患者に対するストレスマネージメントシステムの臨床応用	石橋 寛二	歯科補綴学 II	1,000	補 文部科学省科学研究費補助金 委 基盤研究 (B)
表面処理を施したチタンインジウム表面における骨芽細胞の遺伝子発現解析	武部 純	歯科補綴学 II	1,300	補 文部科学省科学研究費補助金 委 基盤研究 (B)
PET用腫瘍トレーサーである 18F-Choline の細胞周期に依存した集積	小豆島 正典	歯科放射線科学	1,132	補 日本私立大学校振興共済事業団 委 特別補助
新しいPET用腫瘍トレーサーの開発と臨床応用	小豆島 正典	歯科放射線科学	3,003	補 H18年度夢県土いわて戦略的 委 研究推進事業
口腔ケアが介護家族のQOLに及ぼす効果に関する総合的研究	米満 正美	予防歯科学	4,000	補 文部科学省研究費補助金 委

計148件

1. 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該保険医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
2. 「研究者指名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
3. 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合には「補」に、委託の場合には「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Hepato Res. 34(2): 117-123 (2006)	Fasting plasma ghrelin levels reflect malnutrition state in patients with liver cirrhosis	Takahashi H	内科学第一
Dig Dis Sci. 51(2): 359-364 (2006)	Prediction of hepatic encephalopathy development in patients with severe acute hepatitis.	Takikawa Y	内科学第一
J Gastroenterol Hepatol. 21: 374-380 (2006)	Ratio of circulating follistatin and activin A reflects the severity of acute liver injury and prognosis in patients with acute liver failure.	Lin SD	内科学第一
J Iwate Med Assoc. 58(4):315-325 (2006)	Changes in gastrointestinal motility of amyloidosis patients without severe gastrointestinal symptoms; difference between AA type and AL type amyloidosis.	Tokunaga Y	内科学第一
Tohoku J. Exp. Med. 211:251-258,2007	Association of TNF- α gene promoter C-857T polymorphism with higher serum LDL cholesterol levels and carotid plaque formation in Japanese patients with type 2 diabetes.	J. Satoh	糖尿病代謝 内科学
BLOOD 109 (5):1923-1929, 2007	Mad2 associates with c-Kit in MO7e cells	Shigeki Ito,	血液内科学
Circ J. 2007 Apr;71(4):455-9.	A community based epidemiological and clinical study of hospitalization of patients with congestive heart failure in Northern Iwate, Japan.	Nakamura M et al.	内科学第二
Int Heart J. 2006 Nov;47(6):867-76.	Association of decreased variation of R-R interval and elevated serum C-reactive protein level in a general population in Japan.	Nakamura M et al.	内科学第二
Am Heart J. 2007 Sep;154(3):581-8.	Association between toll-like receptor 8 expression and adverse clinical outcomes in patients with enterovirus-associated dilated cardiomyopathy.	Satoh M et al.	内科学第二
J Card Fail. 2007 Mar;13(2):114-9	A novel activator of C-C chemokine, FROUNT, is expressed with C-C chemokine receptor 2 and its ligand in failing human heart.	Satoh M et al.	内科学第二
Eur J Heart Fail. 2006 Dec;8(8):810-5.	Elevated circulating levels of heat shock protein 70 are related to systemic inflammatory reaction through monocyte Toll signal in patients with heart failure after acute myocardial infarction.	Satoh M et al.	内科学第二
Japanese Journal of Public Health. 52: 962- 970. (2006)	Knowledge of smoking-related risks and opinions on tobacco control by smoking status and education level in JAPAN.	Inoue, H.	内科学第三
J Pharmacol Sci. 101(1):24-30. (2006)	Recent advances in molecular pharmacology of the histamine systems: organic cation transporters as a histamine transporter and histamine metabolism.	Yamauchi K.	内科学第三
Tohoku J Exp. 209:75-86. (2006)	Airway Remodeling in Asthma and its Influence on Clinical Pathophysiology.	Yamauchi, K.	内科学第三
アレルギー・免疫 4: 74-80 (2006)	成人気管支喘息における感作アレルゲンの全国調査	井上 洋西	内科学第三
日本呼吸器学会雑誌 2006;44:916-922	日本人の若年者(10歳から20歳)の呼吸機能検査の基準値	井上 洋西	内科学第三
日本呼吸器学会雑誌 4: 312-318 (2006)	わが国における呼吸器内科医師の実態に関する調査報告	井上 洋西	内科学第三
呼吸 12:1093-1094 (2006)	研究の周辺から-早期肺病変検出装置の開発をめぐって-	井上 洋西	内科学第三
アレルギー 55: 820-826 (2006)	好中球エラスターゼによる気道傷害に対するストレス誘導蛋白の抑制効果	山内 広平	内科学第三
アレルギー・免疫 2006;13:246-252	高齢者喘息の肺機能とQOLを考慮に入れた吸入ステロイド療法	山内 広平	内科学第三
アレルギー科 2006;21:575-581	喘息気道リモデリングの臨床病態	山内 広平	内科学第三

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
アレルギー 6; 641-646. (2006)	気管支喘息における胃食道逆流(GER)とプロトンポンプ阻害薬による治療の影響	小林 仁	内科学第三
日本呼吸管理学会誌 4: 551-556 15.(2006)	睡眠呼吸障害における血漿Orexin-A濃度測定の意義	櫻井 滋	内科学第三
Progress in medicine 11: 45-48 (2006)	睡眠呼吸障害の鑑別診断	櫻井 滋	内科学第三
アレルギー科 3:21(235)-218(239). (2006)	Decoy ODN による気管支喘息治療の可能性	中村 豊	内科学第三
日本心療内科学会誌 10(4) :225-229.2006.	呼吸調節機構からみたパニック傷害と過換気症候群	鈴木 順	内科学第三
呼吸と循環 8: 881-885. (2006)	睡眠時無呼吸症候群と脳血管障害	高橋 進	内科学第三
呼吸 2: 137-144. (2006)	Chug Strauss症候群	佐々木 信人	内科学第三
Eur. J. Neurol. 13: 346-350. (2006)	Cabergoline scavenges peroxynitrite enhanced by L-DOPA therapy in patients with Parkinson's disease.	Isobe C Abe T Kikuchi T Murata T Sato C Terayama Y	神経内科学
Int. J. Stroke. 1:14(2006)	Evaluation of carotid plaque using Three-Dimensional(3D) ultrasonography.	Ohba. H Kin. M Ishibashi. Y Terayama. Y Kobayasi. M Inoue. T Ogasawara. K Ogawa. A Hitomi. J Shigemasa. M	神経内科学
Int. J. Stroke. 1:140(2006)	Calcification of intracranial arteries-detection and evaluation using multi-detector row CT(MDCT).	Kin. M Ohba. H Ishibashi. Y Mizuno. M Sasaki. M Terayama. Y	神経内科学
神経治療学 23:515-519(2006)	多発性硬化症患者へのinterferonβの外來, 短期入院での導入	深浦 彦彰 高橋 智 西城 健 寺山 靖夫	神経内科学
治療学 40:335-338(2006)	ラクナ梗塞後の高用量アスピリン投与により脳出血が疑われた症例	寺山 靖夫	神経内科学
脳卒中 28:125(2006)	重症クモ膜下出血の手術適応と予後に関わる因子の定量的検討	高橋智 石橋靖宏 寺山靖夫 東北脳血管障害研究会共同調査グループ	神経内科学
Journal of Cerebral Blood Flow & Metabolism. 26(7) :874-884(2006)	Cerebral hyperperfusion after carotid endarterectomy is associated with preoperative hemodynamic impairment and intraoperative cerebral ischemia.	Komoribayashi, N.	脳神経外科学
Surgical Neurology. 65(6) :577-581(2006)	Cognitive impairment associated with intraoperative and postoperative hypoperfusion without neurologic deficits in a patient undergoing carotid endarterectomy.	Ogasawara, K.	脳神経外科学

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Surgical Neurology. 65(6):621-624(2006)	Treatment of ruptured fusiform aneurysm in the posterior cerebral artery with posterior cerebral artery-superior cerebellar artery anastomosis combined with parent artery occlusion : case report.	Saito, H.	脳神経外科学
J Neurol Neurosurg Psychiatry : Online First. 77 :1345-1349(2006)	Differences in circadian variation of cerebral infarction, intracerebral haemorrhage and subarachnoid haemorrhage by situation at onset.	Omama, S.	脳神経外科学
Clinical Neurology and Neurosurgery. 108(7):655-660(2006)	Alleviation of intracranial air using carbon dioxide gas during intraventricular tumor resection.	Beppu, T.	脳神経外科学
Journal of Neurosurgery. 105(5) : 713-716(2006)	Reliability of cobalt-chromium alloy aneurysm clips after long-term implantations in patients with cerebral aneurysms.	Otawara, Y.	脳神経外科学
Journal of Neurosurgery. 105(5) :781-784(2006)	Treatment of vertebral artery aneurysms with transposition of the posterior inferior cerebellar artery to the vertebral artery combined with parent artery occlusion.	Ogasawara, K.	脳神経外科学
Journal of Neurosurgery. 105(5) :785-787(2006)	Wrap-clipping with polytetrafluoroethylene for ruptured blisterlike aneurysms of the internal carotid artery.	Kubo, Y.	脳神経外科学
Clinical Neurology and Neurosurgery. 109(1): 106-110(2007)	Diffusion tensor imaging for differentiation of recurrent brain tumor and radiation necrosis after radiotherapy - Three case reports	Kashimura, H.	脳神経外科学
Surgical Neurology. 67(2): 156-159(2007)	Three-dimensional anisotropy contrast imaging of pontine gliomas: 2 case reports.	Kashimura, H.	脳神経外科学
胸部外科 58 : 729-733, 2005	高齢者の肺癌-肺機能からみた肺癌-	谷田 達男	呼吸器外科学
胸部外科 59 : 89-94, 2006	肺葉切除別に見た呼吸機能の変化	野中 誠 他 9名と共著	呼吸器外科学
癌の臨床 51 : 663-667, 2005	肺癌手術におけるテレパソロジーを利用した迅速診断とその経済効果	谷田 達男 他 2名と共著	呼吸器外科学
Osteoarthritis and Cartilage. 14巻5号.435-441.2006	Downregulation of inhibitor of apoptosis proteins in apoptotic human chondrocytes treated with tumor necrosis factor-alpha and actinomycin D	Fumitaka Yoshimura	整形外科
Rheumatology International. 26巻.749-751.2006	Possible association of the X-ray cross complementing gene 1(XRCC1)Arg280His polymorphism as a risk for rheumatoid arthritis.	Akiko Koyama	整形外科
Clinical Biomechanics. 21巻.810-815.2006	Effect of hyaluronic acid on the excursion resistance of tendon graft:A biomechanical in vitro study in a modified human model	Toshiki Akasaka	整形外科
Spine. 31巻9号.967-971.2006	A biomechanical assessment of infra-laminar hooks as an alternative to supra-laminar hooks in thoracolumbar fixation.	Hideki Murakami	整形外科
Clinical Orthopaedics and Related Research. 447巻.145-151.2006.	Vascularized Iliac Bone Graft for Iliosacral Bone Defect after Tumor Excision.	Jun Nishida	整形外科
Journal of Biomechanics. 38巻.503-507.2005	Hyaluronic acid diminishes the resistance to excursion after flexor tendon repair:An in vitro biomechanical study.	Toshiki Akasaka	整形外科
Osteoarthritis and Cartilage. 13巻2号.154-161.2005	Changes in microstructure and gene expression of articular chondrocytes cultured in a tube under mechanical stress.	Syuitsu Maeda	整形外科
形成外科 49 (7) 763-768, 2006	双葉皮弁を工夫した外鼻部分欠損の再建	本多 孝之	形成外科学
形成外科 49 (11) 1203-1209, 2006	頬骨骨折親血的整復術への内視鏡を補助としたアプローチ	樋口 浩文	形成外科学
Journal of Pediatrics 148:399-400(2006)	Cerebral infarction after high-dose intravenous immunoglobulin therapy for Kawasaki disease.	Wada Y Kamei A Fuji Y Ishikawa K Chida S	小児科学

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
J Iwate Med Assoc 58:365-368(2006)	Hermansky-Pudlak syndrome.	Kumagai H Sasaki M Maisawa S Sato T McDonald M Chida S Masuda T	小児科学
日本小児腎臓病学会雑誌 19:59-65(2006)	血液浄化装置の安全監視機能が使用可能な低容量回路の作製	石川 健 高田 彰 相馬洋紀 齋藤雅彦 千田勝一	小児科学
岩手医学雑誌 57:489-496(2006)	人工肺サーファクタント製剤の生理活性: Surfacten [®] とSurvanta [®] の比較	橋本 剛 前多治雄 千田勝一	小児科学
日本小児栄養消化器肝臓学会雑誌 20:1-4(2006)	ブドウ糖負荷試験が後期ダンピング症候群の予知に有用と考えられた幼児例	千葉睦実 塚原央之 内田俊彦 熊谷秀規 佐々木美香 千田勝一 水野 大	小児科学
日本小児科学会雑誌 110:1414-1417(2006)	早産児の遷延性無呼吸に対する増粘ミルクの効果	内田俊彦 佐々木美香 熊谷秀規 松本 敦 戸津五月 千田勝一	小児科学
岩手医誌 58: 155-162(2006)	急性腎不全動物実験モデルを用いた低血流量時血液濾過・血液透析濾過の効率に関する研究	相馬洋紀 高田 彰 石川 健	小児科学
小児がん 43:11-17(2006)	Ewing肉腫における <i>RASSF1A</i> 遺伝子および <i>SFRP</i> 遺伝子群のプロモーター領域メチル化と高2倍性染色体異常	菅原和華 春田雅之 渡邊直樹 金子安比古	小児科学
岩手医誌 58:413-418(2006)	インフルエンザ患児鼻汁中の感染促進物質と感染抑制物質の測定	石井まり 千葉睦実 石川 健	小児科学
岩手医誌 58:285-291(2006)	未熟ウサギ胎仔の肺組織像からみた合成サーファクタントの評価	松橋一彦 葛西健郎 内田俊彦 嶋田泉司	小児科学
J Iwate Med Assoc 2005; 57: 367-382.	Changes in full-field cone and multifocal electroretinograms after retinal peripapillary cauterization in cats.	Hayasaka A Machida S Miyamoto H Ishibe T Tazawa Y	眼科学

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Jpn J Ophthalmol 2005; 49: 481-490	Relationship Between the s-wave Amplitude of the Multifocal Electroretinogram and the Retinal Nerve Fiber Layer Thickness in Glaucomatous Eyes.	Nitta J Tazawa Y Murai K Egawa I Nabeshima T Endo T Tanaka M Machida S	眼科学
Curr Eye Res. 2005; 30: 443-453.	Third-order neuronal responses contribute to shaping the negative electroretinogram in sodium iodate-treated rats.	Tanaka M Machida S Ohtaka K Tazawa Y Nitta J	眼科学
Curr Eye Res. 2005; 30: 703-713.	Functional change with photoreceptor loss in rod and cone system in light-damaged rats.	Takahashi T Machida S Masuda T Mukaida Y Tazawa Y	眼科学
Ophthalmology. 2005; 112: 1719-1724.	Intraocular lens implantation after atopic cataract surgery decreases incidence of postoperative retinal detachment.	Inoue M. Shinoda K Ishida S Uchida A Kurosaka D Katsura H Tsubota K	眼科学
Invest Ophthalmol Vis Sci. 2006; 47:591-598.	Involvement of insulin-like growth factor-I and insulin-like growth factor binding protein-3 in corneal fibroblasts during corneal wound healing.	Izumi K Kurosaka D Iwata T Oguchi Y Tanaka Y, Mshima Y Tubota K	眼科学
Retina 2006; 26: 170-175	High prevalence of myopia in patients with idiopathic focal subretinal neovascularization.	Machida S Hasegawa Y Kondo M Murai K Fujwara T Tazawa Y	眼科学
Retina. 2006; 26: 360-362.	A case of punctate outer retinal toxoplasmosis with multiple choroidal neovascularizations.	Fujwara T Machida S Hasegawa Y Tazawa Y	眼科学
Curr Eye Res 2006; 31: 347-355.	Protective effect of hepatocyte growth factor against degeneration of the retinal pigment epithelium and photoreceptor in sodium iodate-injected rats.	Ohtaka K Machida S Ohzeki T Masuda T Ishii T Tanaka M Kurosaka D	眼科学

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Jpn J Ophthalmol. 2006; 50: 367-373.	Changes of oscillatory potentials and photopic negative response in patients with early diabetic retinopathy.	Kizawa J Machida S Kobayashi T Gotoh Y Kurosaka D	眼科学
J Iwate Med Assoc. 2006; 58: 185-194.	Function of the inner retina assessed by s-wave of multifocal electroretinogram following macular hole surgery.	Egawa I Tazawa Y Machida S Nabeshima T Kobayashi T Ishibe T Kurosaka D	眼科学
Otol jpn 16(1): 46-50.2006	落雷による外傷性鼓膜穿孔例	山崎一春 佐藤宏昭	耳鼻咽喉科学
耳喉頭頸 78(3)213-218.2006	突発性難聴の今 4. 難聴予後に影響を与える因子	桑島秀 佐藤宏昭	耳鼻咽喉科学
Audiology Japan 49:373-380.2006	神奈川県と岩手県における急性低音傷害型感音難聴の疫学調査 (厚生労働省急性講堂難聴に関する調査研究)	川島慶之 佐藤宏昭	耳鼻咽喉科学
岩手医学会雑誌 58(4).p273-283.2006	アルミホイール法の作用機序についての検討:アルミニウムの創傷治癒促進作用	菅原祐樹 高橋和宏	皮膚科学
Jpn J Clin Oncol. 36(7):418-424(2006)	Eight Year Experience with Studer Ileak Neobladder.	Obara, W. Isurugi, K. Kudo, D. Takata, R. Kato, K. Kanehira, M. Iwasaki, K. Tanji, S. Konda, R. Fujioka, T.	泌尿器科学
Journal of General Virology. 87:303-306(2006)	Stability of the BK polyomavirus genome in renal-transplant patients without nephropathy.	Takasaka, T. Goya, N. Ishida, H. Tanabe, K. Toma, H. Fujioka, T.	泌尿器科学
Clin Cancer Res. 12(9):2767-2773(2006)	Expression of Novel Molecules, MICAL2-PV(MICAL2 Prostate Cancer Variants), Increases with High Gleason Score and Prostate Cancer Progression.	Ashida, S. Furihata, M. Katagiri, T. Tamura, K. Anazawa, Y. Yoshioka, H. Miki, T. Fujioka, T. Shuin, T. Nakamura, Y. Nakabayashi, H.	泌尿器科学

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Biosci.Biotechnol.Biochem. 70(4):1046-1048(2006)	Antiproliferative Activity of Root Extract Gentian Plant (<i>Gentiana triflora</i>) on Cultured and Implanted Tumor Cells.	Matsukawa, K. Ogata, M. Hikage, T. Minami, H. Shimotai, Y. Satho, Y. Yamashita, T Ouchi, A. Tsutsumi, K. <u>Fujioka, T.</u> Tsutsumi, K.	泌尿器科学
Int J Clin Oncol. 11:303-308(2006)	A randomized comparative study of endocrine monotherapy and combination of estramustine phosphate with the endocrine therapy in patients with untreated stage D prostate cancer.	Hoshi, S. Yamaguchi, O. <u>Fujioka, T.</u> Tomita, Y. Habuchi, T. Ohyama, C. Suzuki, T. Orekasa, S. the Tohoku Prostate cancer study group.	泌尿器科学
Cancer Sci. 98(1):113-117(2007)	Validation study of the prediction system for clinical response of M-VAC neoadjuvant chemotherapy.	Takata, R. Katagiri, T. Kanehira, M. Shuin, T. Miki, T. Namiki, M. Kohri, K. Tsunoda, T. <u>Fujioka, T.</u> Nakamura, Y.	泌尿器科学
Cancer Res. 67(7): 3276- (2007)	Oncogenic Role of MPHOSP1, a Cancer-Testis Antigen Specific to Human Bladder Cancer.	Kanehira, M. Katagiri, T. Shimo, A. Takata, R. Shuin, T. Miki, T. <u>Fujioka, T.</u> Nakamura, Y.	泌尿器科学

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Cancer Res. 67(11):5117-5125(2007)	Molecular Features of Hormone-Refractory Prostate Cancer Cells by Genome-Wide Gene Expression Profiles.	Tamura, K. Fujihita, M. Tsunoda, T. Ashida, S. Takata, R. Obara, W. Yoshioka, H. Daigo, Y. Nasu, Y. Kumon, H. Konaka, H. Namiki, M. Tozawa, K. Kohri, K. Tanji, N. Yokoyama, M. Shimazui, T. Akaza, H. Mizutani, K. Miki, T. Fujioka, T. Shuin, T. Nakamura, Y. Nakagawa, H.	泌尿器科学
岩手医誌 58(3):195-205(2006)	腎癌におけるビタミンDレセプター、レチノイドXレセプター α 、 β 、 γ の発現とその臨床的意義	赤坂俊太郎	泌尿器科学
臨床泌尿器科 60(8):529-534(2006)	転移を伴う腎癌症例の腎摘除術の適応	小原航 藤岡知昭	泌尿器科学
岩手医誌 58(2):77-86(2006)	ROCKによるAkt活性阻害を介した骨格筋細胞分化の制御機構	岩崎一洋	泌尿器科学
岩手医誌 58(1):1-8(2006)	患者の個性を考慮したオーダーメイド医療の実現にむけて—遺伝子発現情報を用いた浸潤性膀胱癌に対するM-VAC術前化学療法感受性予測システムの構築—	高田亮 小原航 藤岡知昭	泌尿器科学
腎泌予防医誌 14(1):106-108(2006)	透析患者の血清リンと循環器疾患合併症の関連	加藤香麻 近田龍一郎 大澤正樹 坂井一好 坂田清美 藤岡知昭	泌尿器科学
腎泌予防医誌 14(1):14-15(2006)	VUR/膀胱尿管逆流症—腎実質障害の発症と腎機能の長期経過—	近田龍一郎 板井清英 藤岡知昭	泌尿器科学
泌尿器外科 19(臨増):395-397(2006)	末期糖尿病性腎症の治療	小原航 加藤香麻 近田龍一郎 藤岡知昭	泌尿器科学
泌尿器外科 19(臨増):349-352(2006)	遺伝子発現情報に基づいた膀胱癌M-VAC術前科学療法感受性予測システムの開発およびその臨床応用	高田亮 片桐豊雅 兼平貢 角田達彦 執印太郎 三木恒治 松下靖 藤岡知昭	泌尿器科学

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
泌尿器外科 19(臨増):371-374(2006)	尿道下裂	丹治進 近田龍一郎 藤岡知昭	泌尿器科学
腎移植・血管外科 18(2):116-122(2006)	化学療法後の残存腫瘍を大動脈合併切除術と人工血管を用いた血行再建手術により完全切除した進行性精巣腫瘍	小原航 前川滋克 那須崇志 井筒俊利 加藤香康 杉村淳 大森聡 丹治進 中島隆之 藤岡知昭	泌尿器科学
臨泌 60(12):921-925(2006)	オーダーメイド医療に向けて	藤岡知昭 小原航 高田亮	泌尿器科学
泌尿器外科 20(臨増):543-545(2007)	M-VAC術前補助化学療法感受性予測の臨床応用に向けた感受性予測カードシステムの構築	高田亮 片桐豊雅 兼平貢 藤岡知昭 中村祐輔	泌尿器科学
Magnetic Resonance in Medicine Society. 5(4). 197-200(2006)	Age-related changes in Locus Ceruleus on Neuromelanin Magnetic Resonance imaging at 3 tesla.	柴田恵理	精神科学
AJR 188 W113-116. 2007	Reasons for rejection of manuscripts submitted to AJR by international authors.	Ehara S Takahashi K	放射線学
Cancer Imaging 8: 158-162	MR imaging in staging of bone tumors.	Ehara S.	放射線学
AJR 187 W554. 2006	Physal stress injury in the knee.	Ehara S.	放射線学
Neuroreport 18 415-418. 2007	Reduced signal of locus ceruleus in depression on quantitative neuromelanin magnetic resonance imaging.	Shibata E Sasaki M Tohyama K Otsuka K Sakai A	放射線学
Magn Reson Med Sci 5 197-200. 2006	Age-related changes in the locus ceruleus on neuromelanin magnetic resonance imaging at 3 Tesla.	Shibata E Sasaki M Tohyama K Kanbara Y Otsuka K Ehara S Sakai A	放射線学
International Congress Series 1290: 30-36.2006	CT perfusion for acute stroke: current concepts on technical aspects and clinical applications.	Sasaki M Kudo K Oikawa H	放射線学

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Neuroreport 17 1215-1218, 2006	Neuromelanin magnetic resonance imaging of locus ceruleus and substantia nigra in Parkinson's disease.	Sasaki M Shibata E Tohyama K Takahashi J Otsuka K Tsuchiya K Takahashi S Ehara S Terayama Y Sakai A	放射線学
RadioGraphics 26 Special Issue S63-73, 2006.	MR Angiography and CT Angiography of the Artery of Adamkiewicz: State of the Art.	Yoshioka K Niinuma H Ehara S et al	放射線学
ASAIO J 52:315-320, 2006	Increase of cell adhesiveness on poly(ethylene terephthalate) fabric by Coating of sintered hydroxyapatite nanocrystals for development of an Artificial blood vessel.	Furuzono T. Tanaka R et al	放射線学
Circulation 114(24) 2679-2684, 2006	Unblinded pilot study of autologous transplantation of bone marrow mononuclear cells in patients with thromboangitis obliterans.	Miyamoto K Tanaka R et al.	放射線学
臨床麻酔 30巻:643-645, 2006年	放射線照射血大量輸血時の血清カルシウム濃度上昇率についての検討 —予定手術と緊急手術の比較—	大河晴生	麻酔科学
麻酔 55巻:579-589, 2006年	腹腔鏡補助下大腸切除術における術中呼吸・循環動態の変動および術後QOL —開腹手術症例との比較検討—	小林隆史	麻酔科学
臨床麻酔 30巻:1245-1249, 2006年	ブプレニルフィン持続硬膜外投与と持続静脈内投与における血中濃度と鎮痛効果の比較	永田博文	麻酔科学
J Biol Chemistry 281:20140-20147, 2006	Cloning and characterization of mouse lung-type acyl-CoA: lysophosphatidylcholine acyltransferase 1 (LPCAT1) -expression in alveolar type II cells and possible involvement in surfactant production.	Nakanishi H Sindou H Hishikawa D Harayama T Ogasawara R Suwabe A Taguchi R Shimizu T	臨床検査医学
Int J Card Imaging 22:573-580, 2006	Three-dimensional recovery time dispersion map by 64-channel magnetocardiography may demonstrate the location of a myocardial injury and heterogeneity of repolarization	Nakai K Izumoto H Kawazoe K Tsudoi j Fukuhiro Y Oka T Yoshioka K Shozushima M Itoh M Suwabe A Yoshizawa M	臨床検査医学
臨床病理 54 : 370-378, 2006	在宅医療における呼吸機能検査(4)	諏訪部章	臨床検査医学

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
臨床病理 54 : 844-849,2006	64チャンネル心磁計の開発と臨床応用	中居賢司 福廣吉晃 川副浩平 坪井潤一 大島祐 小林昇 新沼廣幸 福島明宗 諏訪部章	臨床検査医学
日本腎臓学会誌 48(5) : 407-415(2006)	尿中 cystatin C 測定の臨床的意義	中居恵子 菊池正幸 大森聡 齊藤憲祐 諏訪部章	臨床検査医学
分子呼吸器病 10 : 43-46,2006	単離ラット肺細胞Ⅱ型上皮細胞からのサーファクタント分泌一透過・走査電顕像、微分干渉像、共焦点レーザー顕微鏡による観察	小笠原理恵 吉田康夫 遠山稿二郎 佐藤洋一 諏訪部章	臨床検査医学
Cell. Prolif. 39(3): 231-240(2006)	Synchronization in the cell cycle by inhibitors of DNA replication induces histone H2AX phosphorylation: an indication of DNA damage.	Kurose A Tanaka T Huang X Traganos F Darzynkiewicz Z	病理学第一
Cancer, Biol. Ther. 5(8):959-64(2006)	Acitivation of ATM and histone H2AX Phosphorylation induced by Mitoxantrone but not by topotecan is prevented by the antioxidant N-acetyl-L-cysteine.	Huang X Kurose A Tanaka T Traganos F Dai W Darzynkiewicz Z	病理学第一
Osteoarthr. Cartil. 14: 435-441(2006)	Shinecrosis factor-alpha and actinomycin D.	Yoshimura F Kanno H Uzuki M Tajima K	病理学第一
J Iwate Med Assoc. 58(2): 151-153(2006)	A case of vermiform appendix tumor.	Uzuki M Otsuka K Akiyama Y Ohesu T Guy CD Sawai T	病理学第一
Ann. Vasc. Surg. 20(3):317-21(2006)	The elevated level of circulating matrix metalloproteinase-9 in patients with abdominal aortic aneurysms decreased to levels equal to those of healthy controls after an aortic repair.	Watanabe T Sato A Sawai T Uzuki M Goto H Yamashita H Aakamatsu D Sato H Shimizu T Miyama N Nakano Y Satomi S	病理学第一

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Mod. Rheumatol. 16: 305-308(2006)	Klinefelter's syndrome associated with systemic lupus erythematosus and autoimmune hepatitis.	Sasaki N Yamauchi K Sato R Masuda T Sawai T Inoue H	病理学第一
J. Iwate. Med. Assoc. 58(4): 369-371(2006)	Unclassified sarcoma in spinal cord.	Tokunaga S Murakami H Shimamura T Cummings TJ Fletcher CDM Sawai T	病理学第一
Mod. Rheumatol. 16(6): 401-403(2006)	Rheumatoid nodulosis during methotrexate therapy in a patient with rheumatoid arthritis.	Matsushita I Uzuki M Matsuno H Sugiyama E Kimura T	病理学第一
J. Oral. Sci. 48(4): 253-256(2006)	Pigmented mucoepidermoid carcinoma, a case report and review of the literature on melanin-pigmented salivary gland tumors.	Takeda Y Kurose A	病理学第一
Leuk. Lymphoma. 47(10): 2181-8(2006)	CD26, together with cell surface adenosine deaminase, is selectively expressed on ALK-positive, but not on ALK-negative, anaplastic large cell lymphoma and Hodgkin's lymphoma.	Kammeoka J Ichinohasama R Inoue H Yamamoto J Yokoyama H Tomiya Y Yamada M Ishixawa K Harigae H Sawai T Sasaki T	病理学第一
Cell. Prolif. 39(4): 313-23(2006)	Extent of constitutive histone H2AX phosphorylation on Ser-139 varies in cells with different TP53 status.	Tanaka T Kurose A Huang X Traganos F Dai W Darzynkiewicz Z	病理学第一
Cell. Cycle. 5(15): 1669-74(2006)	Nitrogen oxide-releasing aspirin induces histone H2AX phosphorylation, ATM activation and apoptosis preferentially in S-phase cells: involvement of reactive oxygen species.	Tanaka T Kurose A Halicka HD Huang X Traganos F Darzynkiewicz Z	病理学第一
Int. J. Oncol. 29(2): 495-501(2006)	Constitutive histone H2AX phosphorylation on Ser-139 in cells untreated by genotoxic agents is cell-cycle phase specific and attenuated by scavenging reactive oxygen species.	Huang X Tanaka T Kurose A Traganos F Darzynkiewicz Z	病理学第一
Cell. Cycle. 5(8): 878-82(2006)	2-deoxy-D-glucose reduces the level of constitutive activation of ATM and phosphorylation of histone H2AX.	Tanaka T Kurose A Halicka HD Traganos F Darzynkiewicz Z	病理学第一

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Cytometry. A. 69(4): 222-9(2006)	Sequential phosphorylation of Ser-10 on histone H3 and ser-139 on histone H2AX and ATM activation during premature chromosome condensation: relationship to cell-cycle phase and apoptosis.	Huang X Kurose A Tanaka T Traganos F Dai W Darzynkiewicz Z	病理学第一
Cytometry. A. 69(4): 212-21(2006)	Effects of hydroxyurea and aphidicolin on phosphorylation of ataxia telangiectasia mutated on Ser 1981 and histone H2AX on Ser 139 in relation to cell cycle phase and induction of apoptosis.	Kurose A Tanaka T Huang X Traganos F Dai W Darzynkiewicz Z	病理学第一
Cell. Prolif. 39(1): 49-60(2006)	ATM activation and histone H2AX phosphorylation as indicators of DNA damage by DNA topoisomerase I inhibitor topotecan and during apoptosis.	Tanaka T Kurose A Huang X Dai W Darzynkiewicz Z	病理学第一
	Imaging and microanalysis of bio-materials using TUNNETT oscillator, in Conf. Rec. 2 nd . Tera Medical Forum(Terahertz Optics Project for Medical Applications) and 5 th . Phonon Engineering Forum(Creative Scientific Research "Phonon Engineering"), Sendai, Japan	Kurabayashi T Nishizawa J Plotka P Sawai T Miura Y Aiba S Watanabe T	病理学第一
Mod. Rheumatol. 16(Suppl.):240(2006)	Alteration of cytokine expression in human T-cell lines by Epstein-Barr virus-encoded small RNA (EBER).	Kanno H Sawai T	病理学第一
Mod. Rheumatol. 16(Suppl.):144(2006)	Downregulation of inhibitor of apoptosis proteins (IAPs) in apoptotic human chondrocytes treated with tumor necrosis factor alpha (TNF α) and actinomycin D (actD).	Yoshimura F Kanno H Uzuki M Ouchi N Tajima K Shimamura T Sawai T	病理学第一
Mod. Rheumatol. 16(Suppl.):222(2006)	Hyaluronic acid synthase (HAS) and Hyaluronidase (Hyal) in articular tissues.	Uzuki M Tomunaga S Kamataki A Sawai T	
Mod. Rheumatol. 16(Suppl.):222(2006)	The expression and distribution of hyaluronidase-1, 2, 3 in the synovial tissue of patients with rheumatoid arthritis.	Tokunaga S Uzuki M Kamataki A Shimamura T Sawai T	病理学第一
Mod. Rheumatol. 16(Suppl.):240-241(2006)	Analysis of association between anti-endothelial cell antibodies (AECA) and pulmonary hypertension (PH) in patients with mixed connective tissue disease (MCTD).	Kamataki A Sasaki N Sawai T	病理学第一
医学のあゆみ 218(3): 247-250(2006)	ユビキタス病理診断対応のテレパソロジーシステム-バーチャルスライドのモバイル環境での観察の検討-	宇月美和 澤井高志	病理学第一
病理と臨床 24(7): 759-762(2006)	世界で初めて汎用光ファイバーを利用したハイビジョン・動画テレパソロジーシステムの開発と実用化実験	澤井高志 熊谷一広	病理学第一

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
皮膚臨床 48(6): 819-822(2006)	Pagetoid Bowen病の1例	吉田亜希 菅野祐幸 佐藤晴香 遠藤幸紀 上原伸一 赤坂俊英 澤井高志	病理学第一
Clinical Rheumatology 18 (1): 103-113 (2006)	関節病変の病理	宇月美和 徳永勢二 佐藤克巳 澤井高志	病理学第一
リウマチ科 35(6): 578-585(2006)	関節リウマチにおける軟骨破壊とヒアルロン酸代謝	宇月美和 徳永勢二 貝山潤 鎌滝章央 澤井高志	病理学第一
Ther. Res. 27(10): 1940-41(2006)	混合性結合組織病に合併する肺高血圧症に対する抗内皮細胞抗体の関与について	佐々木信人 黒瀬顕 鎌滝章央 澤井高志	病理学第一
Ther. Res. 27(10): 1943-44(2006)	混合性結合組織病(MCTD)における肺高血圧症に関連する抗内皮細胞抗体(AECA)の抗原の解析	鎌滝章央 佐々木信人 澤井高志	病理学第一
検査と技術 34(11): 1336-39(2006)	テレパソロジーによる病理組織迅速顕微鏡検査	澤井高志	病理学第一
岩手医誌 58(1): 9-21(2006)	変形性膝関節症における関節液のヒアルロン酸とその性状の変化	貝山潤 宇月美和	病理学第一
岩手医誌 58(2): 69-75-(2006)	EBウイルス感染と免疫応答・免疫病	菅野祐幸	病理学第一
第16回近畿リウマチ病研究会講演集 47-55(2006)	関節リウマチ(RA)における心病変	澤井高志	病理学第一
日病理会誌 95(1): 228(2006)	Epstein-Barr virus(EBV)陽性NK細胞の血管内皮細胞への接着能の検討.	菅野祐幸 渡部大輔 清水則夫 駒井悦子 澤井高志	病理学第一
日病理会誌 95(1): 240(2006)	尋常性乾癬における表皮増殖因子の発現及びサイトカインとの共同作用の検討	吉田亜希 菅野祐幸 渡部大輔 赤坂俊英 澤井高志	病理学第一
日病理会誌 95(1): 242(2006)	尋常性乾癬患者リンパ球の培養血管内皮細胞への接着能の検討	渡部大輔 菅野祐幸 吉田亜希 赤坂俊英 澤井高志	病理学第一
日病理会誌 95(1): 272(2006)	関節リウマチ患者の滑膜組織におけるヒアルロン酸分解酵素(Hyal-1, 2, 3)の発現と分布について	徳永勢二 宇月美和 鎌滝章央 嶋村正 澤井高志	病理学第一
日病理会誌 95(1): 272(2006)	CPPD結晶沈着症患者の関節組織におけるANK陽性細胞の性質.	宇月美和 澤井高志 益田郁子	病理学第一

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
日病理会誌 95(1): 300 (2006)	乳腺の病理コンサルテーションの実情:テレコンサルテーションを中心に	森谷卓也 渡辺みか 遠藤希之 笠島敦子 宇佐美伸 石田和之 荻谷嘉之 赤平純一 伊藤しげみ 澤井高志 笹野公伸	病理学第一
日病理会誌 95(1): 376(2006)	テレパソロジー運用ガイドラインの適用と課題	土橋康成 澤井高志	病理学第一
日病理会誌 95(1): 376(2006)	光ファイバー利用による静止画テレパソロジーシステムの有用性に関して-ISDNとの比較検討	渡辺みか 遠藤希之 森谷卓也 澤井高志 笹野公伸	病理学第一
日病理会誌 95(1): 375(2006)	テラヘルツ光波を応用した病理組織解析の試み	三浦康宏 倉林徹 伊藤一孝 須藤建 石川陽一 澤井高志	病理学第一
半導体研究所報告 136: 5-12(2006)	テレパソロジーを通してみる医工学連携の必要性	澤井高志	病理学第一
盛岡赤十字病院紀要 15(1): 134(2006)	弛張熱を主訴とし胸部異常陰影を呈した症例	佐々木喜子 井上千恵子 田村伸夫 加藤さくら 門間信博 宇月美和	病理学第一
日本内科学会雑誌 95(Suppl): 126(2006)	十全大補湯における免疫賦活作用	藤木和彦 高見澤千智 鈴木伸治 薬師寺史厚 富山順治 宇月美和 内田隆 中村雅典 谷口顕	病理学第一
J Clin Pathol 59 : 328-303,2006	Aberrant maspin expression in gallbladder epithelium is associated with intestinal mataplasia in patients with cholelithiasis.	C. Maesawa	病理学第二
Int J Mol Med 17 : 605-616,2006	Interferon-gamma down-regulates expression of tumor necrosis factor-alpha converting enzyme/a disintegrin and metalloproteinase 17 in activated hepatic stellate cells of rats.	T. Fujita	病理学第二
Dis Esophagus 19: 48-52,2006	True carcinosarcoma of the esophagus.	T. Iwaya	病理学第二
Oncol Rep 15: 1205-1210,2006	Mutations of the epidermal growth factor receptor gene in gastrointestinal tract tumor cell lines.	T. Kimura	病理学第二
Int J Cardiol 109: 226-234,2006	Activated toll-like receptor 4 in monocytes is associated with heart failure after acute myocardial infarction.	M. Satoh	病理学第二

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Cancer Sci 97:883-888,2006	Aberrant maspin expression in human endometrial cancer.	S. Murai	病理学第二
World J Gastroenterol 12: 4588-4592,2006	Coexistence of esophageal superficial carcinoma and multiple leiomyomas : A case report.	T. Iwaya	病理学第二
Curr Eye Res 31 : 347-355,2006	Protective effect of hepatocyte growth factor against degeneration of the retinal pigment epithelium and photoreceptor in sodium iodate-injected rats.	K. Ohtaka	病理学第二
岩手医誌 58 : 87-96,2006	ラット in vitro 活性型肝星細胞における interferon- γ のclass I サイトカイン産生に及ぼす影響	小谷康慈	病理学第二
Int J Cancer. 114: 337-345(2005)	Analysis of allelic imbalances at multiple cancer-related chromosomal loci and microsatellite instability within the same tumor using a single tumor gland from colorectal carcinomas.	Sugai T Habano W Jiao YF Suzuki M Takagi R Otsuka K Higuchi T Nakamura S	臨床病理学
Oncology. 68: 548-557(2005)	Analysis of genetic alterations associated with DNA diploidy, aneuploidy and multiploidy in gastric cancers.	Sugai T Habano W Jiao Y-F Suzuki M Takagane A Nakamura S	臨床病理学
J Gastroenterol. 40:708-715(2005)	Analysis of <i>SMAD4/DPC4</i> gene alterations in multiploid colorectal carcinomas.	Ando T Sugai T Habano W Jiao Y-F Suzuki K	臨床病理学
J Mol Diagn. 8(2): 193-201(2006)	Analysis of molecular alterations in left- and right-sided colorectal carcinomas reveals distinct pathways of carcinogenesis.	Sugai T Habano W Jiao YF Tsukahara M Takeda Y Otsuka K Nakamura S	臨床病理学
前癌病変. 消外 28(5) :535-539(2005)	大腸腫瘍の病理	中村眞一 菅井有	臨床病理学
消内視鏡 17(8) :1151-1161(2005)	大腸ポリープにもいろいろある	中村眞一 菅井有 山野泰穂	臨床病理学
病理と臨 24 :76-86(2006)	胃	中村眞一 菅井有	臨床病理学
Medical Postgraduates. 44(1):61-66(2006)	A study of the relationship between the blood levels of nitrite/nitrate (NOx) and the development of ALI/ARDS in sepsis.	Takahashi, G Sato, N Kojika, M Hakozaki, M Imai, S. Miyata, M Suga, Y Makabe, H Shibata, S Shioya, N Endo, S	救急センター

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Medical Postgraduates. 44(1):71-76(2006)	Corelations of surfactant protein with type II phospholipase A ₂ in the presence of ALI/ARDS associated with diffuse peritonitis.	Miyata, M Sato, N Suzuki, Y Kojika, M. Hakozaki, M. Takahashi, G Imai, S Mori, K Inoue, H Suga Y Shibata, S Shioya, N Wakabayashi, G Endo, S.	救急センター
the Japanese Society for Dialysis Therapy. 10(1):12-18(2006)	Endotoxin adsorption therapy for septic shock using polymyxin B-immobilized fibres (PMX): evaluation by high-sensitivity endotoxin assay and measurement of the cytokine production capacity. Therapeutic Apheresis & Dialysis: Official Peer-Reviewed Journal of the International Society for Apheresis, the Japanese Society for Apheresis,	Kojika, M Sato, N Yaegashi, Y Suzuki, Y Nakae, H Endo, S	救急センター
Medical Postgraduates. 44(2):188-194(2006)	Blood levels type II phospholipase A ₂ and platelet-activating factor acetylhydroase are elevated in acute lung injury/acute respiratory distress syndrome.	Miyata, M Sato, N Kojika, M. Hakozaki, M Imai, S Takahashi, G Makabe, H Shibata, S Shioya, N Suzuki, Y Wakabayashi, G Endo, S	救急センター
Medical Postgraduates. 44(2):195-199(2006)	A study of hematopoietic factors in the presence of disseminated intravascular coagulation associated with diffuse peritonitis.	Takahashi, G Sato, N. Kojika, M Hakozaki, M Imai, S Miyata, M Suga, Y Makabe, H Shibata, S Shioya, N Suzuki, Y Wakabayashi, G Endo, S.	救急センター

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Journal of The Iwate Medical Association. 58(1):23-29(2006)	Clinical significance of interleukin 18 in cases of multiple organ dysfunction syndrome associated with diffuse peritonitis.	Takahashi, G Endo, S Sato, N Kojika, M. Hakozaki, M Imai, S Miyata, M Suga, Y Suzuki, Y Wakabayashi, G	救急センター
Medical Postgraduates. 44(3):283-287(2006)	Nuclear matrix protein and tumor necrosis factor a levels in patients with septic acute lung injury/acute respiratory distress syndrome.	Hakozaki, M Sato, N Kojika, M Imai, S Takahashi, G Miyata, M Makabe, H Shibata, S Shioya, N Suzuki, Y Endo, S	救急センター
Medical Postgraduates. 44(4):386-391(2006)	The procalcitonin levels does not elevate in the serum in deep mycosis.	Sato, N Yaegashi, Y Ogawa, M Kojika, M Miyata, M Takahashi, G Hakozaki, M Kikuchi, S Kasai, T Endo, S	救急センター
ICUとCCU. 30別冊:S142-143(2006)	敗血症およびPMX-DHPにおけるエンドトキシン測定法の検討	佐藤信博 小鹿雅博 鈴木泰 箱崎将規 高橋学 笹生亜紀子 遠藤重厚	救急センター
岩手医学雑誌 58(1):57-61(2006)	高エンドトキシン血症に対するエンドトキシン吸着療法施行時のHigh mobility group box 1値と肺酸素化能の検討	遠藤重厚 佐藤信博 小鹿雅博 今井聡子 高橋学 宮田美智子 箱崎将規 鈴木泰 八重樫泰法	救急センター

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Dent. Mater. 22:413-419,2006	Effect of polymerization shrinkage on the interfacial stress at resin-metal joint in denture-base: A non-linear FE stress analysis.	N.Wakabayashi	第一補綴科
Dent. Mater. 23:317-324,2007	Prediction of permanent deformation in cast clasps for denture prostheses using a validated nonlinear finite element model.	N.Wakabayashi	第一補綴科
J.Dent.Res. 85:1087-1091,2006	Influence of alveolar support on stress in the periodontal structures.	N.Wakabayashi	第一補綴科
Prosthodont.Res.Pract. 5:224-230,2006	Stress analysis of overdenture abutment versus crown restoration as a function of supporting bone height.	N.Wakabayashi	第一補綴科
J.Prosthodont 15:89-94,2006	Influence of abutment selection in maxillary Kennedy II RPD on stress distribution in oral mucosa: A FEM study.	N.Wakabayashi	第一補綴科
Prosthodont Res Pract	Influence of midline position and incisal inclination on esthetic of complete denture wearers.	T.Suzuki	第一補綴科
Prosthodontic Research & Practice 5(2):72-79,2006	Occlusal factors associated with temporomandibular disorder based on a prospective cohort study of young adults	Masatoshi Kawano, Masanori Fujisawa	第二補綴科
顎顔面補綴 29(1):10-19,2006	骨芽細胞に対する放射線照射の影響 陽極酸化・水熱処理を施したチタン表面上での初期石灰化について	伊藤創造 塩山司 武部純 工藤努 小西史人 石橋寛二	第二補綴科
Journal of Biomedical Materials Research 80A(Issue3):711-718,2007	Anodic oxidation and hydrothermal treatment of commercially pure titanium surfaces increases expression of bone morphogenetic protein-2 in the adherent macrophage cell line J774A.1	J.Takebe, S.Ito C.M.Champagne L.F.Cooper K.Ishibashi	第二補綴科
Pediatric Dental Journal 16(2): 170-178,2006	The characteristics of the deciduous dental arch form of children in Changchun-city, China	Asakawa,A.	小児歯科
Cytotechnology 52:7-85(2006)	Anoikis-resistant MDCK cells carrying susceptibilities to TWF- α and Vevotox in that are suitable for influenza virus cultivation	Shozushima M.	歯科放射線科
岩手医科大学歯学雑誌 第31巻第1号:32-43, 2006年4月	ミダゾラムによる鎮静時のBispectral Index変化とfMRIによる脳機能画像の検討	池田淳子	歯科麻酔科
岩手医科大学歯学雑誌 第31巻第2号:79-84, 2006年8月	中枢性尿崩症患者の全身麻酔経験	四戸豊	歯科麻酔科
岩手医科大学歯学雑誌 第31巻第3号:197-208, 2006年12月	神経ブロック時の眼窩下神経の形態学的変化	鹿島悠子	歯科麻酔科
日本歯科麻酔学会雑誌 第35巻第1号:55-57, 2007年1月	フロー四徴症に類似した心疾患を有する患児の全身麻酔経験	齊藤綾子	歯科麻酔科
Journal of Anesthesia 20:353,2006	An application of a neinflated laryngeal mask airway to anesthesia for dental treatment	Kuji,A	障害者歯科 診療センター
口腔衛生会誌 56(2):137-147, 2006.	舌苔中の歯科疾患関連細菌と口腔内状況との関連性	高橋雅洋	予防歯科
口腔衛生会誌 56(5): 665-672, 2006.	口腔ケアの評価指標とreal-time PCRによる舌苔中細菌数との関連	岸光男	予防歯科

計211件

(様式第 12)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法

管理責任者氏名	病院長 鈴木 一幸		
管理担当者氏名	病院事務部長 柳沢 茂人	看護部長 小林 長子	薬剤部長 高橋 勝雄
	医事課長 塚澤 仁敏	医務課長 岸浪 衆二	

	保管場所	分類方法	
診療に関する諸記録 病院日誌、各科診療日誌、処方せん、 手術記録、看護記録、検査所見記録、 エックス線写真、紹介状、退院した患者に 係る入院期間中の診療経過の要約	病院事務部 診療記録管理室 各診療科 薬剤部 看護部	診療記録等の管理は、1患者1番号制(ID番号)により管理している。入院診療録は、1入院1診療録とし、タミカデジタル方式による収納としている。外来診療録は1患者各診療科別診療録とし、各診療科による収納としている。	
病院の管理及び運営に関する諸記録	従業者数を明らかにする帳簿	総務部人事職員課	
	高度の医療の提供の実績	病院事務部 医事課 各診療科	
	高度の医療技術の開発及び評価の実績	病院事務部 医務課	
	高度の医療の研修の実績	〃	
	閲覧実績	〃	
	紹介患者に対する医療提供の実績	病院事務部 医事課	
	入院患者数、外来患者数及び調剤の数を明らかにする帳簿	病院事務部 医務課 薬剤部	
	確保の状況 規則第9条の2、3及び第11条各号に掲げる安全管理のための体制	専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	医療安全管理部
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	〃
		医療に係る安全管理を行う部門の配置状況	〃
		当該病院内に患者からの相談に適切に応じる体制の確保状況	医療福祉相談室
		医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全管理部
		医療に係る安全管理のための委員会の開状況	医療安全管理部
医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況		医療安全管理部	
医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全管理部		

(注) 「診療に関する諸記録」欄は、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。

(様式第13)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び紹介患者に対する医療提供の実績

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

閲覧管理者氏名	病院事務部長 柳 沢 茂 人
閲覧担当者氏名	病院事務部医務課長 岸 浪 衆 二 病院事務部医事課長 塚 澤 仁 敏 総務部次長 横 沢 正 浩
閲覧の求めに応じる場所	諸記録閲覧室、カンファレンスルーム、会議室

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	2 件
閲覧者別	医師	延 0 件
	歯科医師	延 0 件
	国	延 1 件
	地方公共団体	延 1 件

○紹介患者に対する医療提供の実績

紹介率	48.2%	算定期間	平成18年 4月 1日 ~ 平成19年 3月31日
算出根拠	A: 紹介患者の数		14,634 人
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数		13,233 人
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数		2,014 人
	D: 初診の患者の数		48,703 人

(注) 1 「紹介率」欄は、A、B、Cの和をBとDの和で除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

2 A、B、C、Dは、それぞれの延数を記入すること。

規則第9条の23及び第11条各号に掲げる体制の確保状況

①専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	有 (4名) ・ 無
②専任の院内感染対策を行う者の設置状況	有 (3名) ・ 無
③医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	有 ・ 無
・ 所属職員：専任 (7) 名 兼任 (5 6) 名 ・ 活動の主な内容：インシデント・アクシデント収集分析、医療事故防止マニュアルの作成、事故発生防止対策の検討、医療事故防止セミナー及び医療安全推進講演会の開催、医療安全推進委員会の開催、診療部門定期視察・指導他	
④当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	有 ・ 無
⑤医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有 ・ 無
・ 指針の主な内容：基本理念、目的、用語の定義、委員会の設置、医療安全管理のためのマニュアル整備、医療安全管理体制の確立、インシデント事例の要因分析と防止の具体策報告、医療事故発生時並びに発生日以降の対応並びに連絡体制、医療安全のための職員の教育・研修他	
⑥医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	年 1 2 回
・ 活動の主な内容：委員会の名称「岩手医科大学付属病院医療安全推進委員会」(平成11年11月25日設置) 開催頻度 毎月1回(第4木曜日定期開催)に加え適宜開催 ①インシデント・アクシデント報告等で得られた事例の発生原因分析、再発防止対策の検討周知に関すること ②発生した医療事故に対する対応及び再発防止策に関すること ③医療事故防止活動及び医療安全に関する職員研修等の企画立案 ④その他医療安全に関すること	
⑦医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 3 8 回
・ 研修の主な内容： ①期日：平成18年5月11日(木) 演題：改訂マニュアルの理解と徹底 講師：医療安全管理部長 小林誠一郎 医療安全推進室長 高橋 智 ②期日：平成18年6月8日(木) 演題：安全戦争～エラーとの戦いに負けないように～ 講師：東京電力技術開発研究所チーフマネージャー 河野 龍太郎 ③期日：平成18年8月3日(木) 演題：増加する医療事故紛争の現状と課題 講師：弁護士事務所 淀屋橋・山上合同 水島 幸子 ④期日：平成18年10月24日(火) 演題：医療安全について 講師：東北厚生局医療監視専門官 伊藤 幸淑	
⑧医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	
・ 医療機関内における事故報告等の整備 (有) ・ 無) ・ その他の改善のための方策の主な内容：リスクマネージャーを中心としたスタッフミーティングにおいて、インシデント・アクシデントの内容を分析し、具体的な防止対策を検討した結果について各種会議に報告し、各医療現場にフィードバックさせ、全職員に医療事故防止にかかる共通認識を持たせる。	